

未来に根付く 3000本

進和学園 全国植樹祭に苗木を出荷

3000本の苗木を出荷した



「第61回全国植樹祭」が今週末23日(日)、秦野市と南足柄市を会場に開催される。同祭は森林・緑に対する国民の理解を深めようと、毎年春に天皇皇后両陛下ご臨席のもと行われる国土緑化運動の中心的行事。当日は、松沢成文神奈川県知事らが出席する式典の終了後に植樹が実施される。

※ ※ ※ ※ ※

県では、同祭で植樹する苗を学校の児童や福祉施設で働く障がい者の育てたものを優先的に利用する方針で進めてきた。

知的障がい者を雇用し、その自立を支援している社会福祉法人「進和学園」(市

内万田/出縄明理事長)では県から本会場・サテライト会場を合わせて2500本の苗木を受注。さらに、(株)サン・ライフ(比企武代表取締役社長)から寄付された植樹基金を活用した苗木500本の提供に加え、3000本の苗木を出荷した。今月2日にサテライト会場の湘南国際村(横須賀市)で行われたプレ植樹祭では、植樹された5000本のうち同学園が育てた苗木は2300本ののぼった。

窓口会社・(株)研進の出縄貴史社長は「手塩にかけた苗木たちが出荷されていくときが一番嬉しい瞬間です」と安堵の笑顔。「植樹祭は森づくりにおける『環境』、子ども達への『教育』、そして障がい者の工賃向上の意味での『福祉』の要素が揃った非常に付加価値の高い行事です」。当日は同学園からも代表者5人が秦野本会場で植樹を行うという。出縄社長は「森づくりと共に障がい者の雇用が生まれる仕組みを、これからも行政や民間企業などに協力を仰いでいきたい」と更なる意欲を見せていた。

同学園が運営する福祉工場「しんわルネッサンス」では2006年に、栽培した苗木を行政や地域の森林再生活動などに広く活用してもらおうと「いのちの森プロジェクト」をスタート。知的障がい者の自立と工賃向上に先進的な政策とされる「官公需の優先発注」に力を入れ、今回の全国植樹祭をひとつの目標として苗木栽培を進めてきた。本会場への苗木の出荷を終えた今月17日、同学園の